

ヴェローナの都市特色とイメージ形成

杜 国慶

立教大学観光学部

本研究は、イタリアのヴェローナを事例として、都市の特色とイメージ形成を分析する。事例都市のヴェローナはイタリア北東部のヴェネト州に属し人口およそ26万人の都市である。2000年以上の歴史をもつ要塞都市として発展してきた中心部には円形闘技場など古代ローマの遺跡が現存し、中世の町並みがよく保存されており、2000年に「ヴェローナ市街」として世界遺産に登録された。また、シェイクスピア作品の舞台としても名高い。ミラノとヴェネツィアの間立地するため、両都市から容易に日帰り旅行ができる。1913年に始まった世界最大規模の野外オペラ祭、イタリア最大のワイン祭り Vinitaly の開催地として、短期滞在観光者も多い。人口規模では小都市にしか過ぎないヴェローナは、歴史基盤と芸術作品、芸術活動、大型コンベンションなどの集客力で観光産業が発展してきた。近年、情報技術の進展に伴い、観光者の情報発信も活発になり、都市のイメージ形成にも影響を及ぼしている。

キーワード：アリーナ、オペラ、コンベンション、ヴェローナ、イタリア

I はじめに

ヴェローナ (Verona) 市はイタリアの北東部に位置し、ヴェネト (Veneto) 州に属するヴェローナ県 (Provincia di Verona) の県都所在地である。2000年以上の歴史をもつ重要な要塞都市として発展してきた旧市街地には円形闘技場など古代ローマの遺跡があり、中世の町並みがよく保存されており、2000年には「ヴェローナ市街」としてユネスコの世界遺産 (文化遺産) に登録されている。イタリア北部の重要な大都市ミラノとヴェネツィアの間立地するため、両都市から日帰りで訪れる観光者も多く、観光都市として知名度が高い (Capitello et al., 2013)。

ヴェローナ市はイタリアにおいて中小都市であるが、世界遺産としても注目され、多くの観光者が訪れている。都市の発展と観光化の進展において、立地や自然条件、文化、観光開発など多様な要因が存在している。本研究は都市観光の視点からヴェローナ市の特色とイメージ形成を分析する。

II イタリアの行政区画とヴェローナ市の概況

ヴェローナ市を理解するためには、まず、イタリアの行政区画を理解する必要がある。

イタリアの行政区画は、国のすぐ下には州 (regione) が置かれ、さらに県 (provincia) と大都市 (città metropolitana) が並列して第2層に入り、コムーネ (comune) が末端の自治体として3階層構造になっている。現在、20州、93県と14大都市、7,000を超えるコムーネが設置されている (図1)。

大都市は1990年に初めて法律で規定されてから、2001年には憲法上の地方団体と見なされた。当初、大都市はおおむね人口100万人超の都市化の進んだ地域で県に代わる地方団体であると意識された。2014年の「大都市、県、コムーネの連合および合併に関する規定」によって、2015年に県レベルの広域自治体として大都市が発足した。2015年1月に9の大都市 (トリノ、ミラノ、ヴェネツィア、ジェノヴァ、ボローニャ、フィレンツェ、ローマ、バーリ、ナポリ) が設置されて